

## 編集後記

このたび本学は、大学基準協会による大学評価において、大学基準に適合していると認定されました。7年に1度の認証評価（大学評価）の受審は、本学にとって大変重要なものです。今回、適合の評価を得ることができたのは、ひとえに全教職員の皆様のご協力のおかげです。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

大学基準協会に提出した点検・評価報告書と大学基準協会による大学評価結果報告書はこの冊子でご確認いただけます。点検・評価報告書をご覧いただくと、本当にたくさんの部署と教職員の方々が作成の過程にかかわっていることがご理解いただけると思います。そして、それを取りまとめた桐原先生（認証評価担当学長補佐）のご尽力によって、点検・評価報告書は完成しました。その意味で、この報告書は本学教職員が力を合わせた結晶であると言えます。また、実地調査の際にも、多くの教職員の方々にご協力いただきました。本学には、このように全員で大学を支える素晴らしい文化があります。今回の認証評価の受審を通じて、改めてその思いを強くしました。

実は、私自身、2019年4月に副学長に就任した際、この認証評価の受審が一番の懸念材料でした。なかでも、受審の前提となる、本学の内部質保証体制（組織だけでなく種々の方針や規程の整備も含む）の構築が、まず取り組まなければならない重要案件だと理解していました。2019年4月の時点で、本学にはもちろん従来の内部質保証体制はありましたが、それでは不十分であることがわかっていました。今回の認証評価で要求されるレベルの体制に変えていく必要がありました。しかし、その作業は簡単ではありません。従来とまったく異なる体制を一から構築するには、その検討から学内手続きまでに要する時間がかかりすぎて、点検・評価報告書の提出期限に間に合わない危険があります。それを考えると、従来から存在する本学の体制をベースに検討するのが現実的だと思われました。しかし、それを実現するのも容易なことではありません。どこかの部分修正だけでは、体制全体の中で不整合が生じたりします。他大学の取り組み等も参考にしながら、基礎から整えていく作業が必要でした。当初の検討は学長室で行いましたが、その後、この仕事に特化した作業チームとして、桐原先生、渡辺恭子先生、置田さん、磯部さんが引き継いでくださいました。4名は2019年の夏休みをかけて検討をかさね、本学の新しい内部質保証体制を築いてくださいました。私が最も心配していた根幹の部分が、4名の献身的な働きによって、なんとか受審に間に合うタイミングで完成しました。この場をお借りして、4名の方々に感謝を申し上げます。

このようにしてできた新たな内部質保証体制ですが、2021年度の受審の時点ではまだ動き出したばかりで実績も少なく、不十分な点もありました。大学評価結果報告書の「総評」において、この体制下での取り組みについて以下の指摘がされています。

全学的な観点からの改善・向上の指示・支援は十分とはいえず、「推進会議」に対する自己

点検・評価結果の報告が行われていない部局等もみられるため、各部局での自己点検・評価のPDCAサイクルを全学的な内部質保証システムのなかに位置付け、「推進会議」「編成会議」が全学的な内部質保証の観点から適切なマネジメントを図るよう改善が求められる。

今後は、この点の改善を含め、本学の内部質保証を軌道にのせていくことが重要になります。引き続き、本学をより良い大学にしていけるよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

金城学院大学 副学長 高野 祐二